

相談事例① 障がい種別：精神障がい

(ご家族からの相談)

家族と離れて県外で生活しています。久しぶりに実家に帰った時、数年前から心療内科に通院していた家族が病院にも行かず生活に支障がでてきていました。

以前は同居している家族が通院の介助をしていたのですが体調不良などで介助できなくなっていました。どうすればいいのでしょうか？

対応⇒通院歴があるので関連する制度を利用しているのではと思い、制度の利用状況をお聞きしましたがわからないとのこと。

障がいに関して利用できる可能性のある制度をご紹介しましたが、ご本人の状況や世帯状況によっても利用できる制度が異なるため、現在利用している制度をご家族に確認して、居住地の市役所窓口にご相談していただくよう説明しました。

相談事例② 障がい種別：精神障がい

(ご本人からの相談)

勤務先で「今月末(2日後)で契約終了」と言われました。1か月の雇用延期はできると言われましたが、契約終了の理由にも納得できなくて腹立たしいです。障がい者差別ではないのでしょうか？

対応⇒相談者の雇用契約に関してはすでにハローワークが関わっていたので、ハローワークの担当者に相談するようお話しするとともに、相談窓口からもハローワークの担当者に相談者からの相談内容を伝えて繋ぎました。

ハローワークに繋いだ後も何度か来庁され、その都度傾聴させていただきました。

相談事例③ 障がい種別：肢体不自由

(ご本人からの相談)

私の障がいに関して不快な言葉を言われました。

障害者差別解消法の障がい者に対する差別になるのでしょうか？

対応⇒相談者に状況を詳しく聞かせていただき、相談者の気持ちも聞かせていただきました。

相手側に障がいに対する理解が足りないための発言だと感じたことや条例の主旨などを説明し、法や条例で規定する不当な差別的取扱いには当たらないことをご理解いただきました。

## 「その他」の事例

### 相談事例④ 障がい種別：精神障がい、身体障がい

---

(ご本人からの相談)

自身が受けている制度の説明がよくわからなくて担当者に聞いても丁寧に説明してもらえないので困っています。

対応⇒相談者に詳しい状況を聞き、日頃の困りごとなども聞かせていただいてから相談内容を担当者に伝えることを了承いただきました。

担当者に相談者が利用している制度の内容を確認して相談者からの相談内容を伝えました。障がいが原因で説明が理解しにくいことや記憶保持にも差しさわりのあることなど担当者にも理解いただいていることなどを確認しました。

相談窓口から相談者に制度の説明をするとともに、わかりにくいことは担当者に書いてもらうよう提案し、何かあったら連絡をいただくようお願いしました。

### 相談事例⑤ 障がい種別：身体障がい

---

(ご本人からの相談)

職場で転倒したのがきっかけで障害者手帳をもらいました。

職場では障がいに対する配慮がなく辛くあたられます。

障がい者差別ではないでしょうか？

対応⇒数回にわたって相談者の話を聞かせていただき内容を整理しました。

雇用の場のことであること、以前にもハローワークへご相談いただいた内容であることから相談者に同行してハローワークの担当者に繋ぎました。